



医療レジリエンス 医学アカデミアの社会的責任

福原 俊一 編集代表

B5 頁 144 2015 年

本体 2,800 円 + 税

[ISBN978-4-260-02147-0] 医学書院刊

評者 黒川 清

医療政策機構代表理事/GHIT ファンド代表理事・会長/
英国 G8 サミット(2013)世界認知症カウンスル委員

本書は、2015 年 4 月に開催された「世界医学サミット京都会合 2015」の概要、および、世界のトップリーダーに、会長である福原俊一氏が取材、インタビューした内容、さらに会議のトピックスをまとめた 1 冊である。しかし、これは単なる「学会の報告書」ではない。背景に流れるのは、福原俊一氏の理念、コア・バリュー、彼の実践から生まれた「思い」、そして日本の医療関係者へ伝えたいメッセージである。

この 10~20 年で、医療を取り巻く世界の状況は激変し、本書では、その背景と課題がはっきりと示され、そこから「激変する世界、変わらない日本」の医療の中心的課題が見えてくる。その意味で、本書は広く医療にかかわる人々にとって、簡潔、明快、視野の広がる、考えが変わる(私は、これを期待しているのだが…)貴重な 1 冊である。福原氏がたどってきたキャリアは、日本の医学界、アカデミアでは「代表的なキャリア」ではなかった。それが彼の視点の根底にあるのではないか。だからこそ多くの人たちに見えないものが、見えているのかもしれない。福原氏が東京大学、京都大学で中心的課題としてかかわってきた、臨床研究を担う人材育成もここにあったのだろう。

以下に「世界医学サミット京都会合 2015」が取り上げた主要なテーマを概説する。

超高齢社会への挑戦

日本は世界に先駆けて非常に速いスピードで超高齢社会に突入している。高度専門医療を中心とした医療

体制を継続していけば、早くも 2025 年には破綻する。これは危機的状態と言ってよいのだが、実はこれは 21 世紀の世界的な大きな課題の一つでもある。日本ではこの状況を「課題先進国」などと言っている識者も多いが、その識者たちは何をし、どんな政策を提言、導入し、構築して、モデルとして世界に示してきたのであろうか？

自然災害への対応と準備

東日本大震災は、広い地域に甚大な損害を与え、長期的な被害も継続している。特に、健康被害は、急性期の被害から慢性疾患の増加やメンタルヘルスなど慢性期の被害に移行している。私たちは、この不幸な災害から何を学ぶのか、学べるのか、未曾有の災害・事故は、日本社会において責任あるエリートへの「Wake Up Call」でもあったのだ。これを契機に、従来なかなか成し遂げられなかった改革ができるのだろうか。福島原発事故から何を学ぶのか、エネルギー政策ばかりでなく、医療提供のあり方、人材育成など、大きな変化が見られているのだろうか？ この危機を生かす機会として、本書にもいくつかの貴重なヒントが見られるだろう。

次世代リーダーシップの育成

激変する社会のニーズに応えるためには、医学アカデミアが新しい価値を創造する必要がある。医学アカデミアの潮流は、治療から予防へ、大学から地域へと、パラダイムがシフトしている。これを先取りし、

医学アカデミアを方向付ける新しいリーダーシップが求められている。従来の自然科学だけに依拠した医学アカデミアから、基礎医学、臨床医学、社会医学がバランス良く協調するチーム型のリーダーシップが求められている。そのためには新しいリーダーとなる人材の育成も必須である。活躍の場は国内に限らない。世界を「場」にして活躍する人材をより多く育てることは、日本にとって喫緊の課題だ。

わが国は、東日本大震災、福島原発事故、超高齢化などを「外的なショック」と位置付け、近い将来の危機を見通し、先駆けて対応する政策を計画し実現する必要がある。医学アカデミアには、わが国の医療システムの転換に協力し、その政策の効果を科学的に評価する社会的な責任がある。象牙の塔に籠るのではなく、自然環境、社会環境の大きな変化に対応し、将来の危機を乗り越えるレジリエンス「折れない“ちから”」を持った医療システムの構築に貢献する社会的責任がある。

「M8 Alliance 京都・福島声明」

以上のトピックスに関する議論を経て、健康と医学に関する国際的アカデミアネットワークである M8 Alliance のメンバー、京都大学、福島県立医科大学が協力して「M8 Alliance 京都・福島声明」¹⁾を作成し、

世界に発信した。その要旨は以下の通りである。

- ・福島は、日本、そして世界の縮図である。福島は、日本の中でも高齢化が特に顕著であり、また震災以前より医療資源が乏しい。このような危機的状況は、日本および先進国の近未来の縮図であると言える。
- ・持続可能なヘルスシステムが備えるべき2つの要素に「対応する力(responsiveness)」と「折れない力(resilience)」がある。
- ・対応する力：自然災害、新興感染症の発生など危機的状況にヘルスシステムが応える力
- ・折れない力：高齢化、疾病構造の変化、経済状況の変化など、時間と共に変化する課題に対してヘルスシステムが柔軟に応える力

「世界医学サミット京都会合 2015」は、世界の演者、パネリストと 600 人を超える参加者を迎え、大成功であったことを付け加えたい。この会合と本書が、多くの参加者の共感と、目覚めへのきっかけになることを祈念してやまない。

文献

- 1) M8 Alliance 京都・福島声明の原文および日本語訳
<http://www.worldhealthsummit.org/>